

キャンプ瑞慶覧からの油流出事故に対する意見書

8月13日早朝、またもやキャンプ瑞慶覧からのディーゼル油の流出事故が発生した。キャンプ瑞慶覧では昨年12月3日、今年3月11日にも同様の事故が連続して発生しており、北谷町議会はそのつど抗議をし、再発防止の申し入れをしてきた。米軍当局は隊員の教育、事故防止等をそのつど約束しながら、事故をくり返し起こしていることは誠に遺憾である。

北谷町は自然と調和した魅力ある街づくりをめざしており、美しい海岸とサンゴや魚貝類の宝庫である海は、町政発展のためにもかげがえのない財産である。米軍の無責任な行為によって、この貴重な自然環境が大量の油等でくり返し汚染されることに強い怒りを禁じえない。

今回の油流出事故は、13日午前2時頃、普天間川の河口付近に住む住民が、川からの油の強烈な悪臭に気づいたことから発覚した。午前7時50分、北谷町から米軍へ通報したが、それまでの間、長時間にわたりディーゼル油がたれ流されたことになる。

このことから、今回の事故は、油水分離施設の欠陥ばかりでなく、長時間にわたり流出事故に全く気づかない管理体制にも重大な問題がある。

米軍当局は、油ばかりではなく、その他の危険物質をも厳重に管理し、環境汚染防止について真剣に取り組んでいるのか、強い疑念を持つと同時に不安を感じる場所である。

よって、北谷町議会は、町民の生命、財産、環境を守る立場から、今回の事故について関係当局に断固抗議し、次の事項を実施するよう強く要請する。

記

- 1、事故原因を徹底的に究明し、本町議会へすみやかに報告すること
- 2、油水分離施設の早期改善と、その他危険物質に対する厳重な管理体制を図ること

以上、地方自治法第99条第2項の規定により意見書を提出します。

1999年8月17日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

内閣総理大臣 外務大臣 防衛庁長官 防衛施設庁長官 沖縄担当大使 沖縄県知事
那覇防衛施設局長